



3_移築の年代と遺構

3-1_古代・中世の事例 法隆寺伝法堂、当麻寺本堂

3-2_近世の事例 仁和寺金堂、大覚寺宸殿

3-3_近代の事例 聴秋閣、山縣有朋記念館

3-4_現代の事例 荻外荘

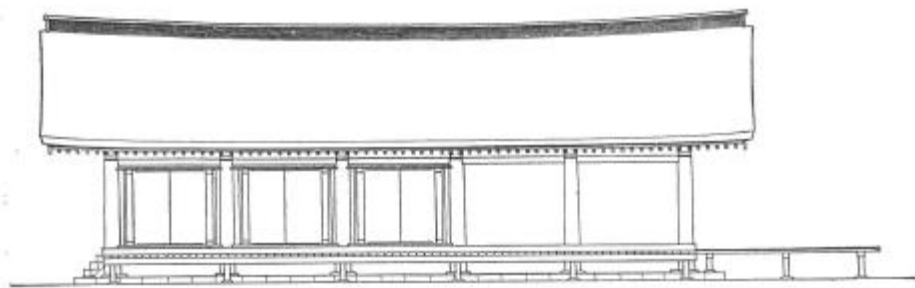


法隆寺東院_伝法堂（奈良県） 旧橘夫人宅

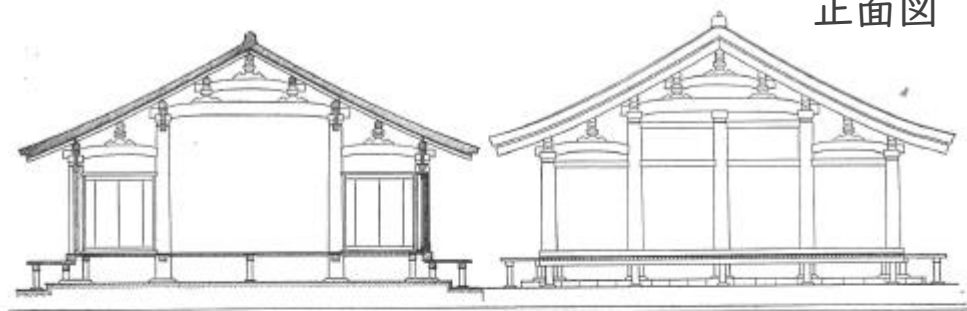


聖武天皇の婦人のひとり橘夫人の邸宅を移築したものとされており、現存唯一の確実な古代貴族邸の建築として非常に貴重な遺構である。創建は天平初年（729）前後であり、東院に移築された時期は天平14年（742）から18年（746）ごろの可能性が高いとされている。

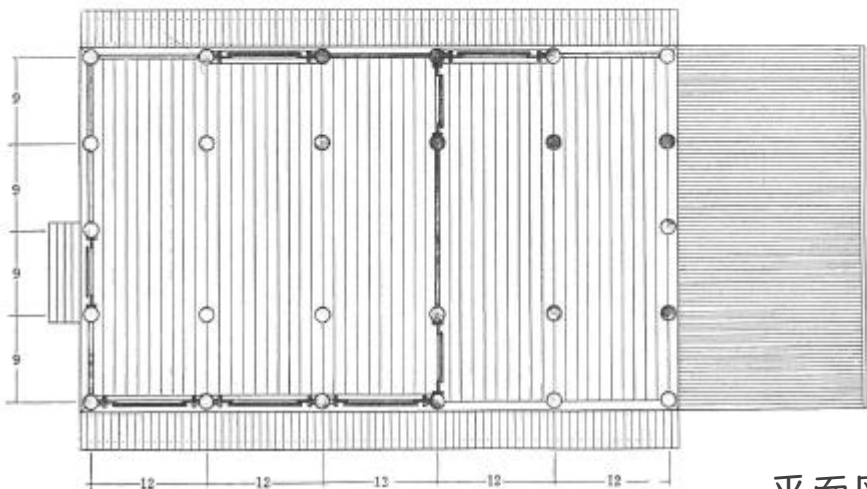
前身建物復原図



正面図



断面図

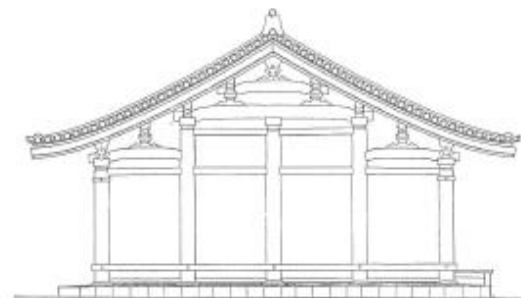


平面図

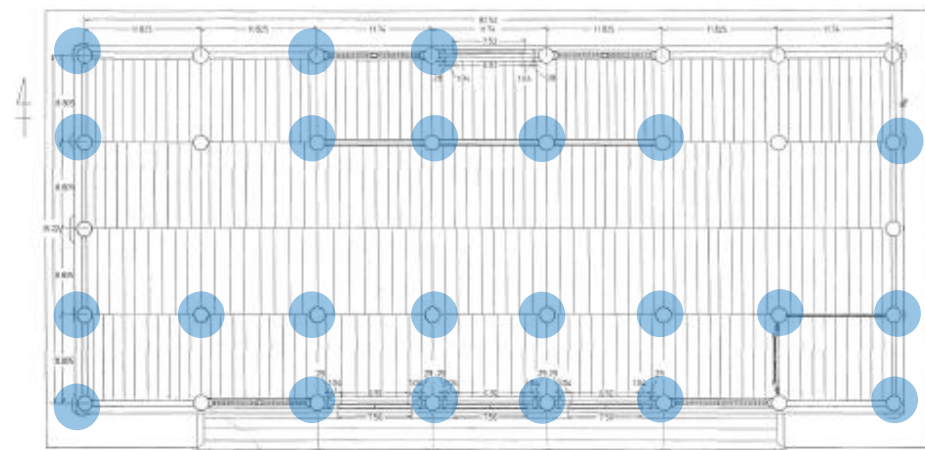
現状図



正面図



断面図



平面図

凡例：
● 当初柱



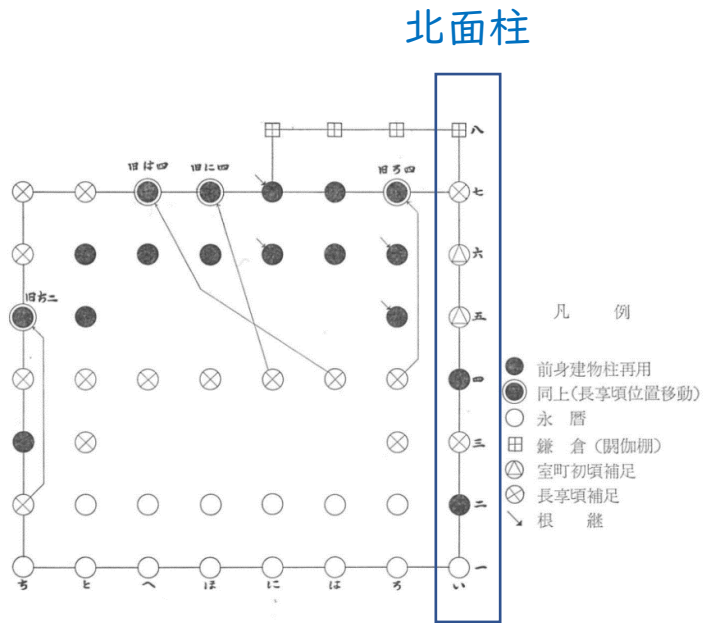
伝法堂西面の写真。前頁現状平面図にみられるように、中央の柱一本が慶長期に新材に取替られている。



当麻寺本堂（曼荼羅堂）（奈良県） ※ 古材転用の事例



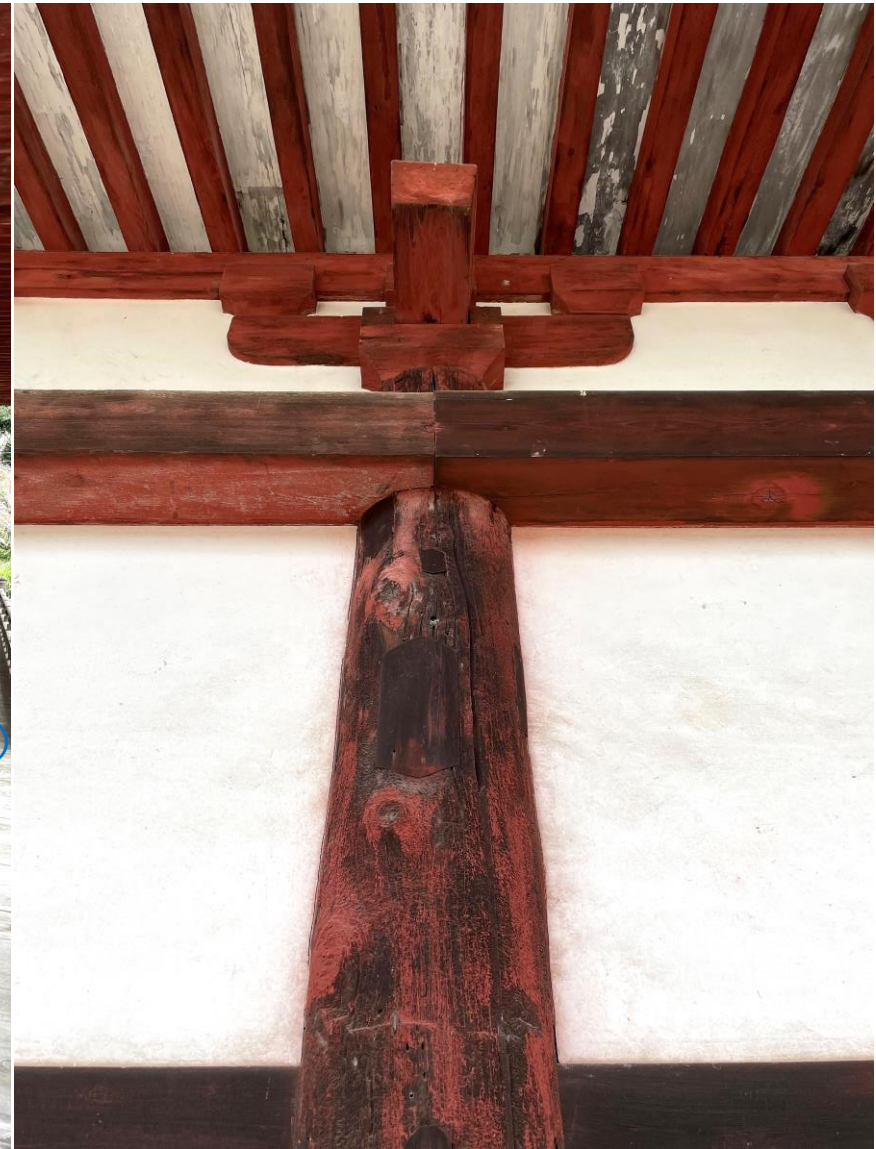
当麻寺は創建当初、弥勒仏を御本尊とした三論宗（さんろんしゅう）寺院だったが、平安時代後半の浄土信仰の高まりとともに当麻曼荼羅を御本尊とする寺院になり、浄土宗と真言宗の2宗で護持されるめずらしい寺院。平安時代初期に、奈良時代のおそらく宮殿に使われていた古材を利用して建てられたと言われている。



柱分類図

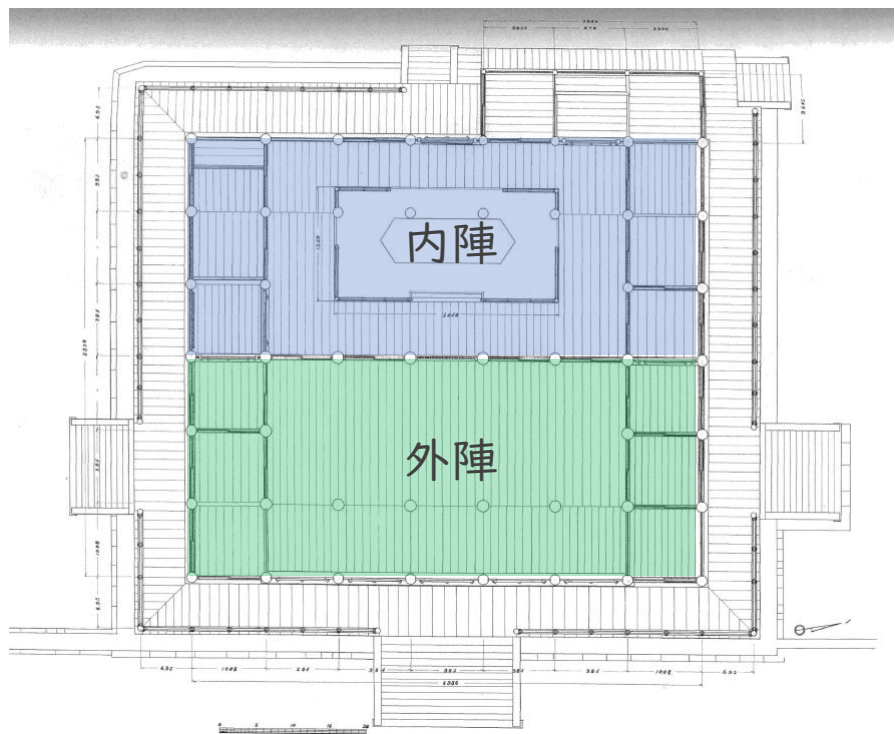


北面外壁写真



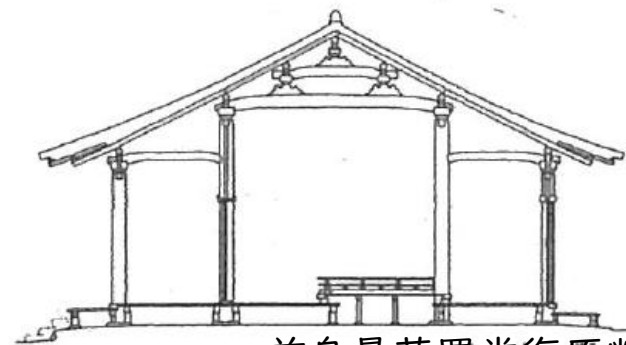
柱頭見上げ写真

建物の変遷を物語る空間

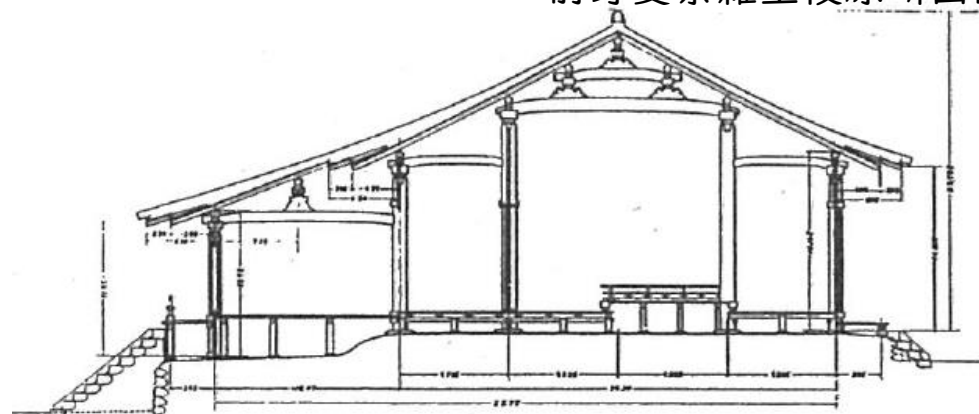


昭和35年修理後平面図

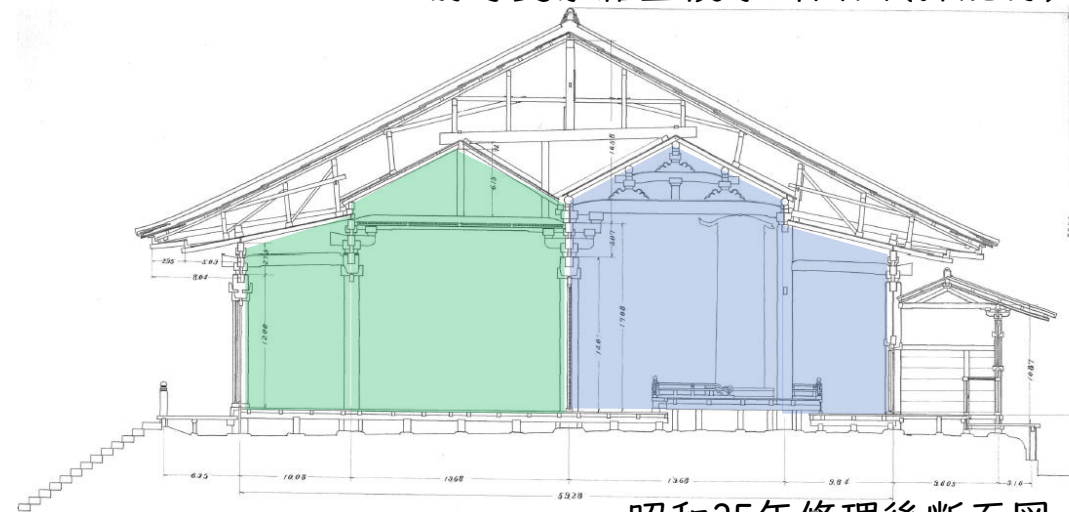
- ・ 昭和35年修理後平面・断面図：
『国宝当麻寺本堂修理工事報告書 附図Ⅱ』1960年10月
- ・ 前身曼荼羅堂復原断面図：
『日本建築史基礎資料集成 仏堂Ⅱ』2006年11月



前身曼荼羅堂復原断面図



前身曼荼羅堂復原断面図(孫庇付)



昭和35年修理後断面図



内陣 二重虹梁墓股

出典：『日本建築史基礎資料集成_仏堂Ⅱ』中央公論美術出版、2006年11月、p.45⁹